

## ◇コミュニティ協議会での活動を振り返って

### 後川桜並木ライトアップ事業の始まり



H19～H24 幹事 吉田 功 栄

後川沿い桜並木は、イトーヨーカドー花巻店から北側に延びる並木通りです。

桜並木は、37年前（昭和54年）に上小舟渡の後川沿いの道路が完成された際に、新しい桜の名所にと花巻北ロータリークラブからソメイヨシノの桜の苗木が寄贈され、花北地区の有志の皆さんがボランティアにより道路沿いに60本程植樹されました。37年経った桜（現在の本数は49本）の幹も大きくなり、毎年、綺麗な桜の花が咲き、桜の名所の鳥谷崎公園に劣らぬ素晴らしい桜の並木通りです。

毎年、私も並木通りを通って感じておりましたが、夜景の桜の開花を楽しむには、街灯だけの明るさでは不十分で、スポットライトや提灯の明るさがあれば、ドライバーや散策される市民の皆さんの眼を楽しませるのではないかと感じておりました。当時は、私もコミュニティ協議会の幹事を務めておりましたので、事務局の野崎さんのご助言や一日市の区長でした石原さんにも賛同をいただきながら、この桜並木ライトアップ事業を花北地区コミュニティ協議会に提案し、四日町一丁目・一日市・小舟渡の3地区の共同事業として承認されました。初めての試みとして、平成24年4月に市の交付金事業を活用し、活性化対策事業として実施に至りました。

このライトアップ事業は、関係地区役員の協力の元に初年度（24年度）は並木通りの全長350mに紅白の棒を32本、提灯32個、点灯期間15日間、午後6時～9時迄として、4月21日にライトアップ点灯式を開催しました。点灯式には、新聞社・花巻ケーブル・FMラジオの報道機関や各自治会の役員も30名程出席され、当日は生憎の雨降りでしたが、電源スイッチを入れると投光器の明かりや提灯が一斉に赤く灯り、ピンク色の桜が輝き、大きな拍手に包まれました。

この年は、寒い年で5月の連休頃まで桜が咲きましたが、次の年からは温暖化と異常気象により、開花予想も早まり4月15日・16日頃には開花が始まっております。

また、次年度からは四日町二丁目も参加され、ライトアップ区間をさらに延長しました。現在は530m、紅白の棒47本、提灯50個、LED用投光器13基を取り付けております。

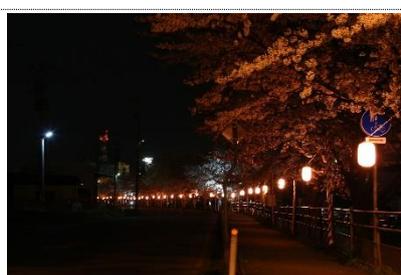
後川桜並木の見どころは、桜並木が直線ではなく南から見ても北から見ても滑らかなスローカーブを描いており、桜並木通りとして素晴らしい夜景も楽しむことができます。最近では、桜並木の名所として沿線住民に限らず、他の地区の皆様も花見に来られ、年々地区外の施設の子供さんも多く、また昼夜撮影される方も多く見受けられ、好評を得られるようになりました。

この事業に当たって一番の心配事は、桜並木の周辺での飲食や飲酒、後川沿いに柵が無いものから誤って川に落ちたり、ゴミ等を川に投棄されることが心配でした。安心と安全を願って、飲食・飲酒禁止、ゴミ捨て禁止の看板を10枚立てお断りしてきましたが、事業開始から4年になりますが、心配事もなく、皆様のマナーの良さに感謝しております。

桜のお花のスポットとして、今後も4地区の活性化共同事業として事業を継続して参ります。



H24. 4 点灯式



ライトアップ



後川沿い桜並木

## 保健体育部の思い出



H19～H26 幹事 渡辺 征彦

私が花北地区コミュニティ協議会の役員として関わりを持ったのは、平成19年～26年でした。

その間に保健体育部会長に就いたのですが、その頃の部会の会議は、様々な意見が出されるものの、常に30分程度で終了し、その後は担当ごとに協力し合い速やかに事を進めるのを見て、若い世代の行動力って素晴らしいものだと感じさせられました。

そのような中、一番の思い出は隔年開催される「花北地区大運動会」です。

当時、東日本大震災の影響を受け、事務所棟などは新築移転のため、グラウンドは手狭となり、運動会の開催に難題が持ち上がりました。

多くの提言の中、似内副部会長のアイデアを活かし桜台小学校のグラウンドで開催することを決定しました。常設となっている既存のコースが利用できることから、グラウンドの整備や用具の準備など大幅な省力化が図られることや応援席も十分確保出来ることから、歌に踊りと目いっぱい発揮出来ると思いました。

そして、当日は素晴らしい天候に恵まれ成功裏に終わることができ「ホット」したことを思い出します。（本音を言えば前夜は、心配でぐっすり眠ることができませんでした。）

これからも継続開催される運動会と思います。ぜひ皆さんで知恵を出し合い、地域が一体となれる大会にして頂きたいと願っております。

今後も花北振興センターを親睦交流の場として活用し、活性化に繋げて頂けるようご祈念いたします。



H26.6 花北地区大運動会



綱引き



大応援団

## 花北コミュニティでの活動



H23～H26 幹事 小原 敏夫

花北地区コミュニティ協議会設立10周年おめでとうございます。  
私がコミュニティにかかわったのは、初代会長眞下さん、西村さん、似内さん、それぞれの会長さんの元で教育文化部を担当し、事業計画推進に取り組みました。その一つは、交付金事業を活用し地域の史跡名勝を大切に保存し次世代に継承するため、史跡案内板の作成設置に取り組みました。その中味を簡単に紹介します。

平成23年度は、四日町三丁目にある本館Ⅱ遺跡の標柱と鳥海神社の由緒を作成しました。本館Ⅱ遺跡は、縄文晩期の遺跡で土器や石器類が見つかっています。鳥海神社は明治初年の創立といわれ、山形県鳥海山神社から分神勧請し、寛政12年に建立されています。

平成24年度は、坂本稲荷神社由緒です。昔、花巻の坂の下(現坂本町)の高台に広隆寺の末寺があり、この庵主の稲荷神社を勧請したいとの願いで、平成11年坂本神社に移し、この地域の人達に信仰されています。また今の花巻神社境内に八幡寺があったとされ、当神社の上り口に案内板を設置しました。

平成25年度には、小舟渡の八幡宮碑の案内板です。八幡宮は、花巻城の鬼門にあたり、城の守り神として祭例の日は境内で武芸が奉納されておりました。境内には八幡太郎義家が自分の鞭を地面に挿し去ったあと、それが芽を出し咲かせたといわれている「鞭桜」として植え継がれております。

平成26年度は花北振興センター向かいに「わが町(四日町)昔と今」と題し、思い出の旧馬検場跡地、旧コミュニティセンター、新振興センターの写真と説明文を記した案内板を設置しております。

その後、平成27年度には浅沢稲荷神社、28年度には北上川河道の跡として文化講演会での資料を看板に作成し、小舟渡の後川桜並木通りに設置されています。

このように歴史を知り、地域・地区にお願いしながら大変勉強になりました。また、教育文化部としては地域文化祭・盆栽教室など多くの事業をする中で皆様に楽しんで、喜んでいただいたことが大変良かったと感謝しております。

これからも花北地区コミュニティ協議会の益々の発展を祈っています。



H23 鳥海神社由緒



H24 坂本稲荷神社由緒



H24 八幡寺跡由緒



H25 小舟渡 八幡宮碑



H26 わが町昔と今(馬検場跡地)



H27 浅沢稲荷神社由緒

## コミュニティ協議会の活動の思い出



H23～H28 幹事 橋本孝夫

花北地区コミュニティ会議設立の翌年、平成20年度から総務部「こぶし編集委員」として3年間携わり、年2回の「こぶし」会報発行にベテランの先輩に学びながら参画しました。

平成23年度からは、一本化された新組織「花北地区コミュニティ協議会」の総務企画部会長及び会報編集員として2期4年担当し、主に「こぶし」発行と「研修バス旅行」を担当、さらに平成27年度からは地域安全部会長として担当、それぞれの思い出を記したいと思います。

### 1. 「こぶし」発行

平成23年度から、皆様に親しみやすく、読みやすい、愛されるような会報を目指しました。「こぶし」の題字は、当時の北中3年生の熊谷君(浅沢)の力強い書を採用し、基本的には現在も当時の題字を使用しております。「こぶし」の愛称を変えようという意見もありましたが、親しみやすさから従来からの愛称を踏襲しました。

また、会報紙面の文字の大きさも従来より大きくし、一面五段を四段にして、より読みやすくしました。内容についても多くの皆様の協力を得て、充実を図ってまいりました。更に従前年2回の発行を年3回に増版、平成25年半ばから全面カラー化を実現し、見やすい、読みやすい「会報」となりました。



### 2. 研修バス旅行

協議会会報第1号

平成23年11月	4日	平泉、一関北上川学習交流会館	バス1台	42名参加
平成24年10月	27日	小岩井農場、松川地熱発電所	バス2台	71名参加
平成25年10月	26日	陸前高田、大船渡津波伝承館	バス2台	89名参加
平成26年10月	25日	葛巻風力発電所・ワイン工場	バス1台	44名参加

- (1) 小岩井農場は、年に数回という素晴らしい秋晴れのもと、専門ガイドによる宮沢賢治ゆかりの地を訪ね、思いを馳せました。帰りがけの岩手山焼け走りでは、溶岩だけの別(月)世界で岩手山の頂上を見上げると、あたかも岩手山を登頂しているかのようで、多くの参加者が絶賛していた。
- (2) 申込者が多数で、お断りしてきた経過を踏まえ、2台でのバス旅行を2回実施。平成25年の津波被害視察は、乗車人数ぎりぎりの89名の参加となり、被害の凄まじさを肌で体験できた感がありました。
- (3) 葛巻研修は、狭い道のりを葛巻町職員のガイドにより詳しく説明があり、本気で町おこしをしているのを実感しました。

### 3. 地域安全部会活動

平成26年度から、岩手県防災センターの研修体験や各地区との防災無線での連絡訓練、そして花北11地区自主防災組織に対してのアンケート調査を行い、各地区の考え方や悩みなどを改善すべく、啓発啓蒙活動を今後も展開して参りたい。

東日本大震災の余震がまだまだ続く昨今、そして北上川洪水浸水の減災を考え、また身近な花北地区内での特に高齢者の交通事故防止対策など、具体的に対応できることを今後も地域の皆さんともども実行して参りたいと思います。

## コミュニティ協議会設立10周年に寄せて



H23～H27 事務局次長 野崎 義則

事務局員として、旧花北振興センター(通称花北コミセン)に2年、現在の花北振興センターに3年の5年間(平成23年4月～平成28年3月)お世話になりました。

きっかけは、花北地区コミュニティ協議会が指定管理者として、平成23年4月より花北コミュニティセンター施設の維持管理運営を市から受託することになり、前会長の似内久展氏より、お誘いの声がかかったからでした。

花北地区に半世紀以上居住し、地域の皆さんに育てていただきながら地区活動に参加したのはPTA活動程度でしたので、自分の経歴を生かし御恩奉仕するいい機会と考えお引き受けすることにしました。

そして花北会館は、私が結婚披露宴会場の利用者第1号という思い出のある施設でもありました。

着任時は、東日本大震災から20日しか経過しておらず施設のあちこちにクラック(亀裂)が入り、壁は剥がれ、連絡通路は落ち、水道管は破損し体育館のトイレや足洗い場も使えず被害の大きさにショックを受けました。

建設後35年が経過し、2年後には新建設の計画が進められていましたが、それまでいかに安心して利用していただくかに腐心しました。

体育館や花北会館への連絡通路の雨漏り、漏電原因がわからず夜間雨の中での調査、貯水槽が凍り鉄棒での氷割り、屋根のツララ落とし(窓が割れないように)と、今思えば懐かしい出来事でした。

歴代役員及び各専門部会委員の皆さん、同僚の事務局員、そして旧施設では夜間管理の高野夫妻、施設の清掃奉仕の藤田さん親子と熊坂さん、障子ふすまの張替えは佐々木さん、軽微な修理でも即対応してくれたヨシダ電気店さん、瀬川工務店さん、市川ガラスさん等々地元の業者さんと地域の多くの方々に助けていただきました。このつながりは、私にとっては大きな財産となりました。

当地域は、昭和48年に自治省のモデルコミュニティに指定され、組織態様は変遷しましたが、多くの諸先輩は、「花巻市のコミュニティ発祥の地」として地域に根差した活動を通し花北の歴史をつくってきました。

コミュニティ協議会は、「花北振興センターを幅広いコミュニティ活動の拠点」として、生涯学習、イベント行事等各種事業を実施しております。また、地域住民自ら主宰し活動しているサークルも数多くあります。

さああなたも自分に合うメニューを探しに、振興センターに足を運んでみてはいかがでしょうか。新たな発見と出会いが必ずありますよ。

最後に、花北地区の将来像「ひとがつどい やすらぎと活力に満ちたまち 花北」の実現のため、コミュニティ協議会の一層のご活躍とご発展をご祈念申し上げます。



H26.6 大運動会反省会



H27.8 愛宕公園草集め